

日本共産党 道議会議員

真下 紀子

困難のりこえ、ともに生きる

はつらつ道政レポート NO.385 2024. 8. 25発行

真下紀子事務所 旭川市3条16丁目左7号

TEL 0166-20-0808 FAX 0166-20-1616 m.noriko.office@gmail.com



危険なオスプレイはくるな!

8月9日、陸上自衛隊のオスプレイ（V-22）が北海道に飛来することがわかりました。事故の危険性に不安を抱く道民の声も聞かず、22日には旭川市にも飛来予定です。（8/20時点）

「北海道訓練センター第3回実動対抗演習」の視察に伴う人員輸送と離発着訓練実施が目的です。災害訓練ではありません。

21日に陸自のオスプレイ1機が木更津駐屯地から丘珠駐屯地へ飛行、22日に丘珠駐屯地⇒帯広駐屯地⇒旭川駐屯地に飛行し、23日に旭川駐屯地を離陸後木更津駐屯地に戻る日程です。本道への自衛隊のオスプレイ飛来は初めてのことです。

横田基地所属の特殊作戦機CV22オスプレイは昨年11月29日に鹿児島・屋久島沖で墜落事故を起こし、乗組員8人全員が死亡。防衛省の調査報告書では▽エンジンからの動力をプロペラに伝達するギアボックス内でギアが破断▽警告灯が5回表示されて

も操縦士が無視して飛行を継続—の2点が主な事故原因です。国の再発防止策は点検の頻度を増やし、飛行時の緊急対応における運用を厳格化するというだけです。しかし、事故原因の詳細は特定できません。政府は3か月以上運用を停止した米側の対応を評価していますが、米空軍のオスプレイの事故原因となったギアボックス内の故障は、過去5年で60件と報じられていますが防衛省側は承知していないと答えています。具体的な構造改修も再発防止対策もできていません。

道は9日午前、北海道防衛局に対し、安全管理の徹底や事故防止に万全を期すことなどを求める緊急要請を行いました。警報が鳴り続けても飛び続ける運用の危険は解消されていません。

自衛隊員を危険にさらすわけにはいきません。

真下議員は19日、鈴木知事に対し、危険なオスプレイの飛来中止、仮に飛来した場合は低空飛行などを行わないこと、低周波を含む騒音を測定・公表することなどを要望、木村敏康危機管理監が対応しました。14日には、旭川市に対して申し入れ、菅野直行副市長が対応しました。

盛大に開催 旭川夏まつり

1日から3日まで、旭川夏まつりが盛大に開催されました。舞踊パレードと大雪連合神輿、烈火夏まつりと賑わいました。真下紀子議員は、市民に親しまれる「旭川観光音頭」が流れる平和通り・買物公園の舞踊パレードなどに参加。平和でこそ祭りは楽しめます。



◆◆ 道議会質問 真下議員トップ! ◆◆

北海道新聞は今年の改選後から第2回定例会まで道議会議員の質問回数を調査。真下紀子議員は47回にのぼりトップとなりました。一方、議長・副議長を除く10人が質問ゼロ（いずれも自民会派）となっていました。

日口の領土問題 多言語で発信を

8月は北方領土返還要求運動強調月間です。その取り組みが北方領土対策特別委員会に報告されました。

真下議員は2月に質問した際、道は「国内外へ領土問題をわかりやすく発信し、国際的にも我が国の立場への理解がすすむようとりくむ」と表明しました。

7日の委員会で、その後のとりくみについて質問。道は、チカホ啓発ブースでの5か国語パンフレットの配布のほか、新たに北方四島交流センター「ニホロ」の展示物を英語表記し、元島民の思いを英語で発信。啓発ブースで動画コンテンツ作品の英語字幕付き放映に新たにとりくむと紹介しました。

真下議員は、「ネットでの情報は世界に発信できる時代ですから、多言語で日口の領土問題を発信するよう」強く求めました。

今はインターネットで情報が世界をめぐる時代です。国際社会の理解を得るために多言語で発信することを強く求めます。



レバンガ「Bプレミアへ」 道、きたえーる個室新設・寄付認める



バスケットチーム「レバンガ北海道」は、新リーグ「Bプレミア」に参入するため、札幌市と協議を進めていましたが、オリンピック招致断念によって、新アリーナ建設の目途が立たなくなり、道に対し、道立「北海きたえーる」に個室新設・ラウンジ設置を要望してきました。

道は6日、ライセンス基準を満たすスイートルーム・ラウンジの改修費約2億円をレバンガが全額負担、完成後に道への寄付を認めると、環境生活委員会に報告しました。真下議員は、総合体育センター「きたえーる」の公共性と公益性、スポーツ振興に資する改修となるのか等を質問。

道は、レバンガ北海道の集客が2021年度約4万6千人、22年度約8万人、23年度約12万8千人となっており、道内の地方のスポーツ振興にも協力してきたと答弁。「検討経過の中で、改修後はバスケット以外のイベントや子どもや障害のある方々の観覧スペースに活用するなど用途の拡大と福祉の向上、スポーツ人口の拡大や道民の観戦・応援機運の醸成につながり、条例の目的としているスポーツ振興に寄与すると判断し、改修を認めた」と答えました。真下議員は、スイートルームの名称を、用途に相応しく検討するよう求め、道は「検討する」と表明しました。



毎週旭川駅前街頭から道議会報告をしています。直接要望を受け、さっそく買物公園の歩道の段差が改修されました。



厚労省担当者は、重度知的障害者の施設入所支援の検討のため、待機状況の実態調査も含めて検討していきたいと表明(7/22)

道議会・道政へのご意見・ご要望をお寄せください。